

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成24年2月10日

【四半期会計期間】 第89期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 愛知時計電機株式会社

【英訳名】 Aichi Tokei Denki Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 鈴木 登

【本店の所在の場所】 名古屋市熱田区千年一丁目2番70号

【電話番号】 052 - 661 - 5151 (代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理統括本部長 小野田 晋也

【最寄りの連絡場所】 名古屋市熱田区千年一丁目2番70号

【電話番号】 052 - 661 - 5151 (代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理統括本部長 小野田 晋也

【縦覧に供する場所】 愛知時計電機株式会社 東京支店
(東京都新宿区高田馬場二丁目14番2号 新陽ビル内)

愛知時計電機株式会社 大阪支店
(大阪市淀川区三津屋北二丁目22番5号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | | 第88期 第3四半期 連結累計期間 | | 第89期 第3四半期 連結累計期間 | | 第88期 | |
|------------------------------|------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|--------|-------------------------|
| | | 自 至 | 平成22年4月1日 平成22年12月31日 | 自 至 | 平成23年4月1日 平成23年12月31日 | 自 至 | 平成22年4月1日 平成23年3月31日 |
| 売上高 | (千円) | | 25,861,766 | | 28,562,717 | | 36,882,373 |
| 経常利益 | (千円) | | 927,929 | | 1,664,540 | | 2,089,341 |
| 四半期(当期)純利益 | (千円) | | 416,620 | | 673,171 | | 1,165,684 |
| 四半期包括利益又は包括利益 | (千円) | | 69,268 | | 610,169 | | 704,101 |
| 純資産額 | (千円) | | 14,657,231 | | 15,691,410 | | 15,430,430 |
| 総資産額 | (千円) | | 33,361,160 | | 35,701,584 | | 35,569,979 |
| 1株当たり四半期(当期) 純利益金額 | (円) | | 8.91 | | 14.40 | | 24.94 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 | (円) | | | | 14.39 | | |
| 自己資本比率 | (%) | | 43.4 | | 43.2 | | 42.9 |

| 回次 | | 第88期 第3四半期 連結会計期間 | | 第89期 第3四半期 連結会計期間 | |
|---------------|-----|-------------------------|---------------------------|-------------------------|---------------------------|
| | | 自 至 | 平成22年10月1日 平成22年12月31日 | 自 至 | 平成23年10月1日 平成23年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 | (円) | | 6.24 | | 2.12 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第88期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
4. 第88期及び第88期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。なお、平成23年8月1日に、リコーエレメックス株式会社と国内におけるLPG用のガスメーター等の販売を事業内容とする合併会社「アイレックス株式会社(連結子会社)」を設立いたしました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災後、個人消費等の景気動向を示す経済指標に持ち直しの動きがみられましたが、欧州の債務危機や円高の長期化等が重なり、景気の先行きは依然不透明のまま推移いたしました。

当社グループを取り巻く環境は、震災後の復興需要の下支えから、設備投資、新設住宅着工戸数も持ち直しましたが、いずれもその水準は低く、公共投資も総じて低調で、当社製品に関連する市場環境は厳しい状況が続きました。

このような環境のもと、当社グループでは、事業基盤の再構築と、成長路線への躍進に向けた諸施策を展開してまいりました。

まず、事業基盤の再構築としまして、8月にリコーエレメックス株式会社との間で設立しました、LPガスメーター等を販売する合弁子会社「アイレックス株式会社」が、11月1日から事業を開始いたしました。

また、新たな部品調達のため、ベトナム・ハイフォン市と中国・大連市に設立しました現地法人において、水道メーター用部品生産の本格稼働を開始し、生産効率向上に努めました。

さらに、11月1日付けで、水道メーター部品の成形、加工および組立を行う新たな子会社「アイチ木曾岬精工株式会社」を設立し稼働させるなど、ものづくり力の強化に向けて、生産体制の再構築に取り組んでおります。

これらの施策の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、285億6千2百万円と前年同四半期比10.4%の増収となりました。利益面につきましては、営業利益は前年同四半期比70.8%増の15億6千8百万円、経常利益は前年同四半期比79.4%増の16億6千4百万円、四半期純利益は前年同四半期比61.6%増の6億7千3百万円と、各々増益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期末連結貸借対照表の前連結会計年度末比増減は以下のとおりとなりました。

流動資産は、5億9千9百万円増加し、220億1千4百万円となりました。これは、現金及び預金が3億9千1百万円、受取手形及び売掛金が2億9千1百万円、繰延税金資産が2億2千6百万円それぞれ減少となりましたが、たな卸資産が17億1千8百万円増加したことなどによります。固定資産は、4億6千7百万円減少し、136億8千7百万円となりました。これは、有形固定資産が4億7千2百万円増加となりましたが、投資有価証券が5億7百万円、投資その他の資産のその他が5億4千6百万円それぞれ減少したことなどによります。この結果、総資産は、1億3千1百万円増加し、357億1百万円となりました。

負債は、1億2千9百万円減少し、200億1千万円となりました。支払手形及び買掛金が3億5千6百万円増加となりましたが、未払法人税等が3億2千6百万円、流動負債のその他が2億6千9百万円それぞれ減少したことなど

によります。

純資産は、配当金の支払いはあったものの、四半期純利益の計上により利益剰余金が2億6千8百万円増加したことなどにより、2億6千万円増加し、156億9千1百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は8億5千4百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 144,000,000 |
| 計 | 144,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日) | 提出日現在発行数(株) (平成24年2月10日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|---|-----------------------------|------------------------------------|------------------------|
| 普通株式 | 46,800,000 | 46,800,000 | 名古屋証券取引所 東京証券取引所 各市場第一部 | 単元株式数は1,000株で あります。 |
| 計 | 46,800,000 | 46,800,000 | | |

(注) 第3四半期会計期間末現在及び提出日現在の発行数には、それぞれ、昭和24年6月1日の現物出資による800,000株が含まれております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|-------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 平成23年12月31日 | | 46,800,000 | | 2,340,000 | | 86,704 |

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日（平成23年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|--------------------------|----------|------------------|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 63,000 | | 単元株式数 1,000株 |
| | (相互保有株式) 普通株式 282,000 | | 同上 |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 46,221,000 | 46,221 | 同上 |
| 単元未満株式 | 普通株式 234,000 | | 1単元(1,000株)未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 46,800,000 | | |
| 総株主の議決権 | | 46,221 | |

(注) 単元未満株式には、当社所有の自己株式209株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|------------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 愛知時計電機株式会社 | 名古屋市熱田区千年 一丁目2番70号 | 63,000 | | 63,000 | 0.13 |
| (相互保有株式) 瑞穂商事株式会社 | 名古屋市中区栄 三丁目25番43号 | 282,000 | | 282,000 | 0.60 |
| 計 | | 345,000 | | 345,000 | 0.74 |

(注) 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権1個)あります。
 なお、当該株式数は「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含めております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日) |
|-------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 5,125,329 | 4,733,387 |
| 受取手形及び売掛金 | 10,004,013 | 9,712,328 |
| 有価証券 | 53,301 | 53,306 |
| 製品 | 538,251 | 851,204 |
| 仕掛品 | 4,442,260 | 5,867,544 |
| 原材料及び貯蔵品 | 195,848 | 176,420 |
| その他 | 1,060,816 | 622,287 |
| 貸倒引当金 | 4,739 | 2,100 |
| 流動資産合計 | 21,415,082 | 22,014,380 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 4,689,703 | 5,162,526 |
| 無形固定資産 | 222,873 | 332,431 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 5,544,817 | 5,037,105 |
| その他 | 3,738,703 | 3,192,450 |
| 貸倒引当金 | 41,200 | 37,310 |
| 投資その他の資産合計 | 9,242,320 | 8,192,245 |
| 固定資産合計 | 14,154,897 | 13,687,203 |
| 資産合計 | 35,569,979 | 35,701,584 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 6,156,264 | 6,512,946 |
| 短期借入金 | 1,814,000 | 1,609,000 |
| 未払法人税等 | 485,453 | 159,438 |
| 役員賞与引当金 | 30,000 | 23,406 |
| その他 | 2,556,056 | 2,286,948 |
| 流動負債合計 | 11,041,775 | 10,591,739 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 4,703,000 | 4,758,000 |
| 退職給付引当金 | 3,935,460 | 4,022,183 |
| 役員退職慰労引当金 | 209,540 | - |
| 資産除去債務 | 5,013 | 5,088 |
| その他 | 244,760 | 633,162 |
| 固定負債合計 | 9,097,774 | 9,418,434 |
| 負債合計 | 20,139,549 | 20,010,173 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,340,000 | 2,340,000 |
| 資本剰余金 | 93,507 | 93,507 |
| 利益剰余金 | 11,833,408 | 12,101,475 |
| 自己株式 | 17,463 | 17,633 |
| 株主資本合計 | 14,249,452 | 14,517,348 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 999,172 | 927,107 |
| 為替換算調整勘定 | - | 29,146 |
| その他の包括利益累計額合計 | 999,172 | 897,960 |
| 新株予約権 | - | 18,156 |
| 少数株主持分 | 181,804 | 257,944 |
| 純資産合計 | 15,430,430 | 15,691,410 |
| 負債純資産合計 | 35,569,979 | 35,701,584 |

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) |
|--------------------------|--|--|
| 売上高 | 25,861,766 | 28,562,717 |
| 売上原価 | 20,138,430 | 21,688,346 |
| 売上総利益 | 5,723,335 | 6,874,371 |
| 販売費及び一般管理費 | 4,805,133 | 5,305,827 |
| 営業利益 | 918,202 | 1,568,544 |
| 営業外収益 | | |
| 受取配当金 | 110,294 | 126,660 |
| 受贈益 | - | 1 70,330 |
| その他 | 59,148 | 71,000 |
| 営業外収益合計 | 169,442 | 267,990 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 78,555 | 60,763 |
| 為替差損 | 33,652 | 78,708 |
| その他 | 47,506 | 32,522 |
| 営業外費用合計 | 159,715 | 171,994 |
| 経常利益 | 927,929 | 1,664,540 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 62,846 | 2,036 |
| 投資有価証券売却益 | - | 14,012 |
| 貸倒引当金戻入額 | 3,212 | - |
| その他 | 9,050 | - |
| 特別利益合計 | 75,109 | 16,049 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | - | 4,617 |
| 固定資産除却損 | - | 8,718 |
| 投資有価証券評価損 | 62,197 | 115,765 |
| 環境対策費 | - | 107,734 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 13,606 | - |
| 不正取引に係る損失 | 2 100,000 | - |
| 特別損失合計 | 175,803 | 236,836 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 827,235 | 1,443,753 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 117,075 | 511,247 |
| 法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額 | - | 132,970 |
| 法人税等調整額 | 276,835 | 354,095 |
| 法人税等合計 | 393,910 | 732,372 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 433,325 | 711,381 |
| 少数株主利益 | 16,704 | 38,210 |
| 四半期純利益 | 416,620 | 673,171 |

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 433,325 | 711,381 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 502,593 | 72,065 |
| 為替換算調整勘定 | - | 29,146 |
| その他の包括利益合計 | 502,593 | 101,211 |
| 四半期包括利益 | 69,268 | 610,169 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 85,973 | 571,959 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 16,704 | 38,210 |

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

| |
|--|
| 当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日) |
| (1) 連結の範囲の重要な変更 第1四半期連結会計期間より、重要性が増したガーベラ精工ベトナム有限会社を、また第2四半期連結会計期間より、新たに設立したアイレックス株式会社を連結の範囲に含めております。 |

【追加情報】

| |
|--|
| 当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日) |
| (会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。 |
| (役員退職慰労引当金) 平成23年6月29日開催の定時株主総会において、役員退職慰労金制度廃止に伴い退職慰労金を打ち切り支給することが承認されました。なお、打ち切り支給に関する支給の時期は各氏の退任時であるため、役員退職慰労引当金の全額を取崩し、打ち切り支給額の未払分197,628千円については、固定負債の「その他」に計上しております。 |
| (法人税率の変更等による影響) 「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は125,893千円減少し、その他有価証券評価差額金が72,668千円、法人税等調整額は198,561千円増加しております。 |

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。
 なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------------|
| 受取手形 | - | 267,101千円 |

(四半期連結損益計算書関係)

- 連結子会社であるアイレックス株式会社が、販売事業の立ち上げに伴い収受した金銭であります。
- 不正取引に関する調査等に要した費用であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) |
|-------|--|--|
| 減価償却費 | 645,793千円 | 743,967千円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-------|----------------|-----------------|------------|-------------|
| 平成22年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 163,600 | 3.5 | 平成22年3月31日 | 平成22年6月30日 |
| 平成22年11月15日 取締役会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 163,598 | 3.5 | 平成22年9月30日 | 平成22年12月13日 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成23年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 186,949 | 4.0 | 平成23年3月31日 | 平成23年6月30日 |
| 平成23年10月28日 取締役会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 210,315 | 4.5 | 平成23年9月30日 | 平成23年12月6日 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

当社グループは、全セグメントに占める「計測器関連事業」の割合が高く、開示情報としての重要性が乏しいことから、セグメント情報の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

当社グループは、全セグメントに占める「計測器関連事業」の割合が高く、開示情報としての重要性が乏しいことから、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) |
|---|--|--|
| (1) 1株当たり四半期純利益金額 | 8円91銭 | 14円40銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(千円) | 416,620 | 673,171 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | | |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(千円) | 416,620 | 673,171 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 46,741,830 | 46,736,858 |
| (2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 | | 14円39銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益調整額(千円) | | |
| 普通株式増加数(株) | | 56,443 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要 | | |

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第89期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)中間配当については、平成23年10月28日開催の取締役会において、平成23年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

| | |
|------------------|------------|
| 配当金の総額 | 210,315千円 |
| 1株当たりの金額 | 4円50銭 |
| 支払請求権の効力発生日及び支払日 | 平成23年12月6日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月10日

愛知時計電機株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 水 上 圭 祐

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 浜 明 光

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴 木 晴 久

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている愛知時計電機株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、愛知時計電機株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成23年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成23年2月10日付で無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成23年6月29日付で無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。